

## 多摩大学大学院 スポーツマネジメントスクール 第2期＜2008年度＞ 実施ならびに受講生募集のご案内

2008年1月31日(木)

2008年度も、多摩大学大学院では、MBAコース内にて「スポーツマネジメントスクール(SMS)」を開講いたします。

多摩大学大学院スポーツマネジメントスクールは、2003年より2006年まで4年間にわたり(財)東京大学運動会が主催、実施したカリキュラムを踏襲し、大学院の正規科目となるように発展させた形で2007年度より開設いたしました。大学院のみでなく、広く社会人の履修希望者にも受講を認める「公開講座」となっております。

終身雇用制度の崩壊による人材市場の流動化は、多くの社会人が次のキャリアを自ら切り拓くための「働きながら学ぶ」という新たな教育市場を生み出しました。昨年度同様、「多摩大学大学院スポーツマネジメントスクール」は、「再教育」という個人への投資を志向する多数の社会人が履修を希望されるものと思われまます。その意味でも、本学の品川キャンパスは絶好の位置にあると考えます。

以下に開設趣旨を述べます。

### 社会的背景と開講趣旨

#### 1) スポーツ産業の意義と可能性

わが国の経済が発展し、成熟段階に入り、「内需」と「ソフト」への傾斜を志向すべきであると、(古くは前川レポートにて)指摘されて既に久しい年月がたっています。そして、「失われた10年」と言われた1990年代の日本において、産業の生産性という点では、実は製造業においてそれほどの問題があったわけではなく、第三次産業の「サービス産業」における生産性が、先進国に比較して劣っていることも判明しています。以上の事実は、基本的に「内需志向」であり、「サービス産業」である「スポーツ産業」の今後の発展について、大きな潜在的可能性を示唆しているといえまます。つまり、「スポーツ産業」を振興することは、わが国全体の経済にとって志向すべきパラダイムへの変換を促す現実的な契機となりうるのであります。更に、「現状で生産性が低い」ことは、「今後の改善余地とその可能性が大いに現実的だ」ということでもあります。

また、スポーツ振興は「地域振興」につながることは今や常識となりつつあります。同時に日本人のライフスタイルは、可処分所得の伸びが抑えられながら、余暇時間(=可処分時間)が増える傾向にあり、余暇が「時間消費型」となることも明らかです。従って、「余暇の過ごし方」という要素が日本人の人生の豊かさを決める重要度を益々深めていくことは確実です。スポーツは「時間消費型」のソフトですから、スポーツ振興は今後の日本人の生活の豊かさを左右する重要な要素だといえまます。

#### 2) マネジメント・ナレッジの確立と人材育成

現状においてスポーツ産業の可能性が、潜在的なままで現実化していないのにはそれなりの理由があります。

魅力的な「スポーツという商品」が存在し、かつ有望な顧客が存在するならば、その産業育成・振興のためには、

1) 資本 2) 制度 3) ナレッジ/人材

の3つが必要不可欠です(このナレッジは、競技向上目的ではなく、ビジネス・マネジメントのナレッジであることは言うまでもありません)。

スポーツ・サービス産業が未発達なわが国の現状を鑑みれば、そのどれもが不十分ではないでしょうか。この3つの間には相互に原因と結果の関係が存在します。資本のあるところに人材は集まるでしょう。また、制度と人材が揃えば資本は集まるでしょう。これらの関係はいわば「鶏と卵」のようなものです。だとするとどれから先に着手すべきなのでしょう。現下の経済状況、あるいは問題解決に要する時間、コスト等を考えると、3)の「ナレッジ整理と人材の育成」から開始することが、最も現実的だと思えます。

#### 3) 大学の役割

最近、「スポーツ産業」が就職先として魅力的であるという認識が高まりつつあります。「スポーツが産業の場である」と広く認識されたのは、04年のプロ野球の再編問題と、「東北楽天」という新規球団創設というできごとが大きかったと思われまます。新球団の創設にあたって人材を募集したところ、「数週間で数千名が応募した」という事実は有名です。そしてこれに呼応するように、多くの大学が「スポーツ・ビジネス関連」の学科・コースを新設・拡充し、またそれらを志望する学生も激増しているというのが現状です。

ただ残念ながら現実には、我が国ではスポーツが学校体育として定着していた歴史が長く、産業として認識されたのは最近なので、「ビジネス・ナレッジ」の集積と体系化が未熟であることは否めまません。そもそも現時点では、「スポーツ産業」自体の定義すらできていないのが現実です。当然ながら現時点では、大学を始めとする教育界に「スポーツ・ビジネス」を教育するナレッジもメソッドも未整備なままであり、どこもいわば「見切り発車」のままで、「スポーツビジネス教育」をスタートしてしまったのが現状ではないでしょうか。

上記の課題を解決し、優秀な人材をスポーツ産業界に供給することは、単にわが国の「スポーツ界」のみならず、「(人材育成のための)教育界」、更には「経済界」にとって焦眉の急であると思われまます。

多摩大学大学院スポーツマネジメントスクールでは、ビジネスの専門家を講師としてネットワークし、企業活動におけるマネジメントの多様なノウハウをスポーツ界に還元することに加え、履修生が育むネットワークも大きな財産になるはずであります。多くの有志のご参加をお待ち申し上げます。

## 多摩大学大学院 スポーツマネジメントスクール 第2期<2008年度> 講師および講義スケジュール

2008年3月5日(水)

### 実施概要

場 所：多摩大学大学院 品川サテライトキャンパス内  
期 間：2008年4月7日～8月4日（全16回） 毎週月曜 18:30～21:30  
料 金：15万円（テキスト代含む／税込）  
定 員：50名（一般公募枠）  
講 師：弁護士、公認会計士、経営コンサルタント、危機管理コンサルタント、スポーツビジネスコンサルタントほか  
募集要項：別添資料参照  
募集期間：1月31日（金）～2月25日（月）  
備 考：○修了者には履修証明書（certificate）を授与  
○詳細については、以下 HP 参照  
多摩大学大学院 <http://www.tama.ac.jp> / スポーツ総合研究所 <http://www.sports-soken.com>  
問合せ先：多摩大学大学院スポーツマネジメントスクール事務局  
E-mail / [tama-sms@sports-soken.com](mailto:tama-sms@sports-soken.com)（担当：広瀬／中村）

担当	氏名	現職／スポーツに関する経歴
コーディネーター	広瀬 一郎	多摩大学大学院教授／スポーツ総合研究所(株) 所長／スポーツビジネスコンサルタント
基調講演	犬飼 基昭	(社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) 専務理事
マネジメントの現場	森本 美行	データスタジアム(株) 代表取締役社長
経営戦略論	山本 真司	ベイン・アンド・カンパニー・インコーポレイテッド パートナー
戦略的人事論	本間 浩輔	多摩大学大学院客員准教授／ワイズスポーツ(株) 取締役／元(株)野村総合研究所 コンサルタント
戦略的経理論	宮 裕	あずさ監査法人 代表社員・公認会計士／Jリーグ経営諮問委員会 委員
法務 1	升本 喜郎	TMI総合法律事務所 パートナー弁護士／(財)日本ラグビーフットボール協会法務委員会委員
法務 2	石渡 進介	Field-R法律事務所 弁護士／日本プロ野球選手会顧問弁護士
顧客の把握とCRM	池田 健一	(株)La Bandiera dello Sport 代表取締役／スポーツ総合研究所(株) デイレクター
広報と危機管理	北嶋 良亮	(株)電通パブリックリレーションズ リスクコンサルティング部 専任部長
組織とガバナンス	小寺 昇二	多摩大学大学院客員准教授／元(株)千葉ロッテマリーンズ 経営企画室長
自治体を知る	鎌形 太郎	(株)三菱総合研究所 地域経営研究本部長 主席研究員

回数	日程	講義内容	講師
第1回	4月 7日(月)	オリエンテーション／SMSのビジョンと方針「なぜマネジメントか?」「スポーツマンシップ」	広瀬 一郎
第2回	4月14日(月)	基調講演／スポーツビジネスに必要な人材とは	犬飼 基昭
第3回	4月21日(月)	「リーグ産業の構造／特質／リスク」「ステークホルダーと戦略」	広瀬 一郎
第4回	4月28日(月)	コミュニケーション論	広瀬 一郎
第5回	5月12日(月)	経営戦略論	山本 真司
第6回	5月19日(月)	「データを利用した選手の評価」(スポーツマネジメントの現場)	森本 美行
第7回	5月26日(月)	戦略的人事論	本間 浩輔
第8回	6月 2日(月)	戦略的経理論	宮 裕
第9回	6月 9日(月)	法務1 -団体規定と選手契約関連法務-	升本 喜郎
第10回	6月16日(月)	組織とガバナンス	小寺 昇二
第11回	6月23日(月)	スポーツ・マーケティング	広瀬 一郎
第12回	6月30日(月)	顧客の把握とCRM	池田 健一
第13回	7月 7日(月)	広報と危機管理	北嶋 良亮
第14回	7月14日(月)	法務2 -スポーツライセンス関連法務-	石渡 進介
第15回	7月28日(月)	自治体を知る	鎌形 太郎
第16回	8月 4日(月)	総論／まとめ	広瀬 一郎

### 講義スケジュール

※ 2008年3月5日現在  
※ カリキュラム／講師などは、  
変更になる場合がございます。

多摩大学大学院 スポーツマネジメントスクール  
第2期<2008年度>  
受講申込案内

2008年1月31日(木)

1. 申込方法： 下記URLにアクセスし、応募フォームに必要事項を記入の上お申し込みください。
2. 提出書類： お申し込みの際は、以下2点の書類添付が必要です。

■ 受講申込書

<[www.sports-soken.com/form/tsms08/](http://www.sports-soken.com/form/tsms08/)>にアクセスし、応募フォームに必要事項を記入後、レポートを添付の上、ご応募ください。

■ レポート 2種

(1) スポーツ界が抱える課題について

現在のスポーツ界が抱える課題と、その解決方法について、ご自身のお考えをマネジメントの観点から言及してください。またこのスクールを受講する動機もあわせてご記載ください。

(2) 感想レポート

『「Jリーグ」のマネジメント』(広瀬一郎著/東洋経済新報社)をお読みにになり、感想をレポートとしてまとめてください。

<様式>

※それぞれA4用紙1枚以内/縦置き横書き(文字数自由)

※Word形式で作成したファイルを添付し、WEB上から送信してください。

注意) 保存する2つのレポートのファイル名には、半角英数字のみをご利用の上、「姓-名-1.doc/姓-名-2.doc」として添付してください。

日本語や全角英数字をご利用の場合、添付・送信ができません。

例) 鈴木一郎様の提出レポートのファイル名

レポート(1)/suzuki-ichiro-1.doc レポート(2)/suzuki-ichiro-2.doc

3. 受付期間： 2008年1月31日(木)～2月25日(月)

※本スクールでは、お申込をいただいた後、書類選考を行います。  
※選考結果は3月中旬にE-mailにてお知らせする予定です。



お問合せ先



多摩大学大学院スポーツマネジメントスクール事務局  
E-mail: [tama-sms@sports-soken.com](mailto:tama-sms@sports-soken.com) (担当:広瀬/中村)



留意事項



- 受講料は全額前納制です(受講料のお振込詳細については、選考結果と併せてご連絡いたします)。
- 受講開始後における受講料の返還はいたしません。
- 主催者の判断により、途中で退学を勧告する場合がございます。ご了承ください。